

ニホンザルの保護・管理の基本と出沒対応のための体制整備

株式会社 野生動物保護管理事務所
海老原 寛

講演要旨

サルは、農業被害だけでなく生活環境被害や人身被害の問題が発生しており、人の生活圏での多重的な被害によって軋轢が深刻化している。また、近年では全国的に市街地での出沒が多発しており、都市住民への危害や不安が広がりつつある。一方、サルは個体群の分断や縮小による地域的な絶滅という歴史的な背景があり、保全に十分留意した管理が求められる。ここでは、サルの保護・管理の対策を進めるうえで知っておくべき基本的な生態的な特徴や行動特性をおさえ、計画的な管理を推進するための考え方と手法について理解を深める。さらに、突発的に市街地で出沒するサルへの対応法について学び、被害の予防と問題解決のための知識を深める。

■サルの特性に応じた計画的な管理

主なサルの被害は、地域個体群に属する「群れ」が発生させている。そのため、対策に取り組むべき対象は群れであり、群れ管理が基本となる。群れは、変化が小さい一定の行動範囲内で活動する。行動範囲の広さは、生息環境や個体数によって多様だが、概ね複数の集落をまたぎ数十 km^2 で広域となる。群れの行動特性は「加害レベル」として6段階で評価できる。サルは、分布状況や群れ特性の現状を把握したうえで、広域的な管理方針と個々の群れの対策方針を検討し、計画的に対策を進めることが重要となる。

■現状把握の課題

サルの全国統計の農業被害金額は、シカやイノシシと比較すると大幅に少ないが、小規模圃場での被害が多く統計上には現れにくい傾向があり、農業被害の深刻度の評価が難しい。統計上の課題は生活環境被害や人身被害も共通しており、現状を正しく把握する手法の導入が必要である。また、被害問題の発生状況は、サルの分布拡大と個体数の増加、加害レベルの上昇が影響しており、問題解決に向けては広域的な群れ生息状況の現況を把握するための取り組みが重要である。さらに、対策を強化すべき群れについては、対策対象群の特定、捕獲目標頭数の決定、効果的な捕獲場所の選定等のために詳細なモニタリングを実施することが有効である。

■市街地出沒の対応

初期対応として出沒情報の収集と住民への注意喚起が重要である。出沒している個体の身体的な特徴や行動特性を把握し対応方針を検討する。被害予防と排除を目的とした駆逐を基本とし、被害発生状況に応じて捕獲を実施する。県及び市町村、警察、専門家等の連携体制を構築し、対応時の役割を事前に協議しておくことが望ましい。